

創立60周年迎えた神戸大学交響楽団

ベートーベン交響曲 第9番「合唱」を披露

17日、神戸文化ホールで演奏会

神戸大学交響楽団(氈漕部 長、部員九十二人)は、楽団を創立して六十周年を迎えた。これを記念して十七日午後七時から、神戸市生田区の神戸文化ホールで開く第二十五回定期演奏会で、他大学のコーラス部などの協



練習に励む神戸大学交響楽団の団員たち(神戸大学の学生会館で)

力を得て、学生オーケストラとし、第九番「合唱」は、第四楽章でベンの交響曲第九番「合唱」を披 四人の独唱と合唱が加わり、シラ

一の賛歌である「歡喜に奮す」が歌われ、そこにベートーベンが表現しようとした偉大な思慮、人間愛を感じさせるので、まさに第九交響曲こそはベートーベンの交響曲の集大成として、古今のすべての交響曲の最高頂に立つ名曲といわれる。

この「大曲路線」は、昨年十月に決定、すでに夏休みも返上して

本格的な練習を重ね、二学期からは毎週火、木、土曜日に三、四時間の練習に励んでいる。いまではかなりの自信もついで、練習にはひとしお活気が出ている。しかし、合唱は同楽団以外のコーラス部が大阪芸術大・桜井武雄教授の指揮で練習をしているが、全部のコーラス部がまとまって練習をする回数が少ないだけに、その調整に苦労しているという。

第九番「合唱」を取り上げたことについて、楽団では「創立六十

周年を迎えた神戸大学交響楽団の長い歴史の中での一つのピークと自負するから。この六十年間に在籍した部員個々のためまめ努力、音楽へのひたむきな愛情と献身が結集し、さまざまな困難を克服してきた。ささやかながら一つの歴史であり、今度の演奏はさらに高い歴史をつくる飛躍台としての意義をもっている」という。

なお当日は、ベートーベンの交響曲第九番のほか、シューベルト「ロザムンデ」序曲、OBによる

記念演奏もある。入場料は六百円で、神戸市内の各ラレーガイド、各大学で売っている。問い合わせは神戸市兵庫区菊水町五一—二四、本田隆晴さん(〇七八—〇一七六四〇)へ。